

2 Work shop

事例紹介 & ワークショップ

NPO と行政とのパートナーシップ、という言葉が頻りに耳にすようになってきました。「行政が単独で事業を行うのではなく、専門性のある NPO との協働事業により、より質の高い市民サービスを提供する。」という点が注目されているからだと思います。

しかし、多くの地方自治体職員にとっては、NPO に対する期待と不安が入り混じった状態にあるのではないのでしょうか？「市民や NPO とのパートナーシップ事業を行いたいけれど、NPO について良く知らないし、そんな団体はあるのだろうか？」という不安です。また、既に実践されている方には、「契約形態はどうするのが良いだろう」、「期待したような動きをしてもらえない」という悩みがあるかもしれません。

このワークショップでは、そうした問に答えるべく、実際に行政との協働により事業を行っている NPO を講師に招き、事例紹介と問題提起をしました。その後に、現場で悩む担当者同士が、グループワークを通じて意見の共有・議論を行い、課題解決の糸口を探ろうというものです。

■ 目的

- 参加者が、「NPO との協働によって何が得られるのか」、「NPO に対してどういう配慮が必要なのか」を理解・共有する。

■ 配慮したこと

- “ 共通した課題 ” を抱える担当者同士が、意見交換・交流をできる時間をとること
- ワークショップに慣れていない参加者でも、討議に参加しやすい環境をつくること
- 現場での課題解決の糸口になるよう、実践的な研修内容にすること

■ 流れ

10:00 -	アイスブレイク・チーム内自己紹介 (15 分)
10:15 -	ミニ講演：パートナーシップの鍵となる NPO (15 分) NPObirth の佐藤留美さんより、「何故パートナーシップが必要か」というテーマのお話をいただきました。
10:30 -	協働のケーススタディ (15 分×2) NPObirth、“カーリットの森”を守る市民の会、2つの事例紹介をしました。
11:00-11:10	参加者からの事例紹介 (10 分) 事前アンケートの中から、各チーム一人ずつ、現在抱えている課題を簡単にお話いただきました。
11:15 -	グループ作業 (50 分) チーム毎にテーマを定め、話し合いました。 ・NPOを知るために...NPOの活動をどうやって把握するかを考える ・NPOとの協働による環境学習...よりよいプログラムや教材を創るために、いかにして協働するかを考える ・協働の現場ノウハウを確立するために...NPOとの様々な連携手法などを考える
12:05 -	グループ発表 (5 分×3) グループで話し合った結果を発表しあい、参加者全員で共有しました。
12:20-12:30	クロージング (10 分) 全体の総括を行いました。

■ グループ作業で出てきた回答 (抜粋)

まとめ方は、チームによって異なります。

・NPOを知るために...NPOの活動をどうやって把握するかを考える

ファシリテーター：伊藤 (GEIC)

● 行政内部の問題

- ・ 環境担当課とNPO担当課の交流がないため、情報が入らない
- ・ NPO 関連の情報を集めるシステムがない
- ・ 行政の発信する情報がバラバラ

→これらの課題解決策として

- ・ ワンストップサービス窓口の実現
- ・ 役割分担をハッキリと (NPO 窓口で情報を一元化し、環境、福祉、国際、などに振る)
- ・ 行政内協働 = 連携をしっかりとる



- 情報の問題

- ・ NPO は、特定の課とのみ繋がっている ・ 最新情報の収集・発信が難しい
- ・ 情報が自然に集まってくる仕組み、情報の取りまとめ、発信方法が出来ていない

→これらの課題解決策として

- ・ 広報誌の活用 ・ 県のサーバを提供し、情報を入力してもらっている

- NPO・人材の問題

- ・ うるさいNPOは知っているが、地味なNPOは知らない
- ・ 単なる趣味の活動なのか、非営利活動なのか分からない
- ・ NPOを作ってくれるような若者がいない
- ・ 工場を退職したおじさんばかり、熱心に活動している
- ・ 人口が減っているのに、あー困った困った（人材に乏しい）
- ・ 連携していきたいNPOをどう把握すれば良いか、情報もあまりない

→これらの課題解決策として

- ・ NPOの方と会って話を ・ 交流会、勉強会、場の提供など
- ・ NPOが行政と関わりたくなるような情報発信 ・ NPOの育成

・ NPO との協働による環境学習...

よりよいプログラムや教材を創るために、いかにして協働するかを考える
ファシリテーター：富田（EPO）

- NPO との付き合い方の問題

- ・ NPOの中でも温度差がある（熱心なところとそうでないところ）
- ・ 接点ができたNPOとだけの関係に縛られる傾向がある
- ・ NPO経験がある人がいる間はいいが、行政は異動が多いのでつながりが途切れてしまう
- ・ NPOは、環境教育・学習に対する意識が低い印象
- ・ 声の大きいNPOが中心になってしまう
- ・ しっかりとしたNPOとのつきあいに限られる
- ・ 散在するNPOを束ねるNPOが欲しい
- ・ NPOとの付き合いは信頼が大切



環境教育・学習をNPOと一緒に取り組むにあたって、前提となる議論。

（逆に、いいお付き合いができれば、いいプログラムや教材作りも可能になる）

- NPO 情報の入手、情報の公平な扱い

- ・ NPOへの働きかけ（声かけ）を公平にする方法が分からない
 - ・ どこにどんな活動をしているNPOがいるのか分からない
- グループ の報告を参考にすることにした。

公平性に縛られる必要はなく、その時々のご縁で構わない、という意見も。

- 役割分担の仕方
 - ・ NPOと役割分担するにあたって、行政がどの程度関与するのがNPOとして動きやすいかどこまでやっていただけるか（が難しい）
 - ・ どこまでやっていただけるか（を推定するのは難しい）
行政としての出番はいくらでもあるが、それになかなか気が付かないだけ。
側面的支援（学校への情報提供、表彰制度の設置など）だけでも有効。
- 教材・プログラム作り
 - ・ 環境教育プログラムを委託する先を、コンサルとNPOのどちらか悩んでいる
 - ・ 良いプログラムを開発しても、継続的に実施してもらえないおそれがある
 - ・ そもそもプログラムを開発・実施できるNPOが少ない（そのため、複数のNPOを競わせることができず、決められない）

行政としての出番はいくらでもあるが、それに気が付かないだけ。行政の現場ならではの、の悩み。全国的な取り組みをしているNPOの中には、パッケージ型のプログラムやツールを提供しているところも多い。そうした有力NPOの情報が入らないのも悩み。

協働の現場ノウハウを確立するために...NPO との様々な連携手法などを考える

ファシリテーター：佐藤（NPObirth）

- 目的の共有化
 - ・ 緊張感がなく、ゴールが見えない。自然とゆったり過ごす事がゴールになっている
- NPO か企業か？
 - ・ 協働の相手方として、民間企業を排除できない
- NPO の行政への望みが分からない
 - ・ NPO 間連携を行政が支援するニーズはあるか ・ 声の小さいNPO の引き出し方
NPOにとって、行政が提供する情報の内容として、どのような内容を望むか
→これらに対するリアクションとして（佐藤）
 - ・ パートナーシップ的な契約方法がない→委託になって任せきり
 - ・ NPO のノウハウを行政にタダでもっていかれてしまう
 - ・ 下請け的に使われてしまう ・ 行政主導で立ち上げた団体に仕事がいきやすい
- 行政主導になりがち
 - ・ 行政への要望・不満がだんだん増えてくる（特に発展途上のNPO）
 - ・ 事務処理が遅い（行政側で代わりに作成している）
- 組織の違い
 - ・ NPO の活動が多様な場合、行政側の部局毎の連携がうまくいかない。
 - ・ 個人ネットワークの関係を、いかに組織化していくか（連続性、継続性）

→これらに対するリアクションとして（佐藤）

 - ・ 職員の異動で、作ってきた関係が崩れる

- 支援組織
 - ・ 支援組織の経費、注意すべきことは何か
 - ・ メンバー構成、人数はどうすれば良いか
- NPO について知らない
 - ・ NPO との意思疎通を深めるには時間がかかる
 - ・ どのような NPO があるのか把握するのが難しい
 - ・ 任意団体の実態をどのように把握するか（ホームページへの掲載等）



→ これらに対するリアクションとして（佐藤）

- ・ NPO の活動を知ってもらうチャンスがない
- NPO の良さが活かされていない
 - ・ NPO の自由な発想を、行政の立場から制限してしまう
 - ・ 「行政の下請け」という感情が、NPO の内部分裂を招いている
 - ・ NPO 同士の連携を、どのようにしたらつなげていけるのか（NPO の活動目的から広範囲における活動目的の共有化）

→ これらに対するリアクションとして（佐藤）

- ・ NPO のプロ化が必要

■ アンケートの回答から（抜粋）

- ワークショップ自体の経験があまりなかったもので、進め方等、ワークショップのやり方自体が勉強になりました。今後、ワークショップを開催する時に参考にさせていただきたいと思います。また、グループ討議で、課題を抽出していく過程で、皆さん同じようなことで悩んでおられることがわかって、心強く感じました。
- NPO との付き合い方、協働について他の自治体のみなさんの意見をお聞きすることができ、非常に良かったです。自治体の方だけでなく NPO の方のご意見も聞けたり、短時間の間に解決策なども話しあえたのも収穫でした！
- NPO の方と協働で事業を行う場合の基礎的な情報がよくわかりました。分かりにくかった点やこうして欲しかったということはとくにありません。行政担当者は、「楽しさ」をあまり重視しませんが、NPO と協働で事業を進める際には、キーワードになるような気がしました。今回の企画そのものも楽しかったです。
- 今回のワークショップは、時間が短かったことが残念です。もう少し時間があれば、互いのグループ間の情報交換・質疑もできたことと思います。

■ スタッフのまとめ

- 成果
 - ・ アンケート結果を見る限りでは、課題解決の一助になっている。新任職員が多い事もあって、ワークショップを経験した人も少なかったもので、その楽しさを理解して頂いた。

- ・ NPO との協働事業経験の無い職員にとっては、豊富な実践経験を持つ佐藤さんの話は関心が高かった。NPO との協働がどういうものかイメージを描けなかった人にとっては、参考になった。
- ・ グループ討議の開始直後は議論が進まなかったが、悩みを共有できてからは、問題が具体的かつ実体験を伴っているので議論に幅が出、問題認識の共有が進んだ。
- 反省点
 - ・ 時間が足りない時は、ファシリテーターがある程度まとめないと進まないこと、全員にできるだけ発言してもらうのが理想だが、限られた時間では難しいことが分かった。
 - ・ グループワークの時間が充分に取れなかった。時間が短いというのは最初から問題であったが、せめて「NPO とは何か」という事を認識していただきたかった。アンケートの結果でも「時間が無かった」という意見が多かった。
 - ・ 参加者のレベルが分からず、何を課題として良いのかが分からなかった。直前にアンケートをとったのだが、準備が間に合わず作り込みが甘くなった。
- 感想（伊藤）
 - ・ 新任の方が多くNPO との付き合いがない人が多かった。もっと積極的に外へ出て、NPO との交流を深めていかないと、協働関係の構築は難しいのではないかと感じました。

■ 参加者リスト（敬称略）

. NPO を知るために・・・NPO の活動をどうやって把握するかを考える

栃木県	環境政策課	入野 祐子
千葉県	環境政策課	井原 康浩
神奈川県	環境計画課	山田 祐美世
横浜市	環境にやさしいまちづくり課	出雲路 秀昭
愛媛県	環境政策課	若宮 菜穂子
北九州市	計画課	鶴野 和彦
福岡市	環境啓発課	小中 あけみ
熊本県	環境センター	倉岡 博

. NPO との協働による環境学習...

よりよいプログラムや教材を創るために、いかにして協働するかを考える

愛知県	環境政策課	福田 かおり
滋賀県	エコライフ推進課	岡田 貢
和歌山県	環境生活総務課	辻沢 宏
岡山県	環境政策課	佐藤 勇夫

徳島県	循環型社会推進課	阿部 篤
福岡県	環境政策課	鐘ヶ江 弥生
佐賀県	環境課	久保田 美穂子
沖縄県	環境政策課	新城 光雄

協働の現場ノウハウを確立するために...NPO との様々な連携手法などを考える

北海道	環境政策課	本田 晃
札幌市	環境活動推進課	濱谷 和代
東京都	企画調整課	村山 崇
富山県	環境政策課	川口 順子
環境省	中部地区事務所	西井 宰一
大阪府	循環型社会推進室 環境管理課	肥塚 秀昭
神戸市	減量リサイクル推進課	児玉 康子
広島市	環境政策課	田尻 寿尚

■ スタッフ紹介

【講師】

佐藤留美（さとうるみ）

特定非営利活動法人 NPO birth（バース）事務局長。NPObirth は、「人と自然との共存」をテーマに、緑保全を通じた地域づくりを目指し、1998 年に活動を開始。緑地保全のサポートセンターとして、市民・行政・企業等のパートナーシップ促進、市民活動支援、環境教育事業、国内外の緑のネットワークづくりをすすめている。NPO・企業・行政へのコンサルティングのほか、サンフランシスコを中心とした米国の先進事例調査なども行っている。

ホームページ：http://www.npo-birth.org/

【スタッフ】

○ 伊藤博隆（いとうひろたか）

2000 年 8 月より地球環境パートナーシッププラザのスタッフ。「環境らしんばん」の企画・立ち上げ・運営マネジメント等の総合プロデュース、メールマガジン編集長。2002 年にはヨハネスブルグ・サミットで NPO を取材。個人では、生まれ育った横浜で、“カーリットの森”を守る市民の会事務局長のほか、複数の環境 NPO に所属している。

○ 富田行一（とみたこういち）

2002 年 5 月より 1 年間、環境パートナーシップオフィスのスタッフ。機関誌「つな環」元編集長。GEIC ホームページリニューアル担当。学生時代よりアースデイ・フェスティバルに関わり、協賛していた企業に就職。会社員の傍ら、環境ボランティアの各種活動に関わり、グリーン購入ネットワークへも出向。現在、NPO 法人 荒川クリーンエイドフォーラム 理事、他。

2003 年 6 月 1 日付け異動になり、EPO を離れました。